



# 学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～

平成29年8月25日発行 No.17 文責 塩川小学校長 佐藤 寅記



## 二学期の重点は、「あ・は・も」の「もくひょう」です。

二学期の最重点は、「目標を持ってやり遂げる子ども」の育成です。さて、目標を持つと、人はどうなるのでしょうか。始業式では、「目標」を持って生活する大切さについて、私が感銘を受けた宮本延春さんの生き方を例えに話をしました（下記、丸囲みテキストの内容）。

「目標」を持つと、「オール1の生徒」でも高校教師になることができるのです。目標は、粘り強い心となって夢を叶えてくれます。子ども達の自己実現を促進するエネルギー（自己啓発の力）となります。



川の祭典で「祭り囃子」を披露しました。

我々塩川小教職員は、子ども達に目標を持たせ、それを達成する経験を積み重ねていきます。そして、目標（目的、夢）を持つ大切さ、やり遂げることの喜びを伝えていきたいと思ひます。

**「漢字で書けるのは、自分の名前の4文字だけ。九九は2の段までしか言えず、英単語は『book』しか知らない。この人は、何才くらいの人だと思いますか？」**

これは、宮本さんの中学1年生の時の学力の一例です。中学3年生の成績は「オール1」でした。この人は、宮本延春という人で、中学校卒業後、見習い大工となりました。17才頃フリーターとなりバンド活動に熱中しましたが、18才で両親を亡くし建設会社に就職しました。宮本さんに転機が訪れたのは23才の時でした。夜間高校に通いはじめ、数学のテストで県No.1になり、27才で難関国立大の名古屋大に合格し、37才で物理を教える高校教師となりました。オール1の中学生が、このような人になれたのはなぜでしょうか。「目標（目的）を持つこと」と宮本さんは言っています。

23才の時、アインシュタインのビデオを見て感銘を受け、物理を学びたいという目標を持ち、「小学3年生のドリル」を買って猛勉強をはじめたことが転機になったと話しています。

※ 子どもは、誰しも可能性とよさを持っています。それに気づかせたり引き出したりする営みが教育です。教育の素晴らしさはここにあります。「もくひょう」をキーワードに、充実した教育活動を工夫してまいります。



## 「夏休み中のご支援、ご協力に感謝いたします。」

### ◆プール監視、ありがとうございました。

暑い中、子ども達の安全を見守っていただきました。お陰で、延べ1485人（1回平均67人、1日平均135人）の子ども達がプールを訪れ、健康の増進と泳力の向上をめざしていました。16名が、11回全てに参加しました。

### ◆夏休み学習会、合唱指導、本の寄贈など、ご支援ありがとうございました。

15回あった夏休み学習会には、毎日20名が参加しました。富子先生と智美先生がご指導くださいました。合唱練習では、安部先生が毎日ピアノ伴奏してくださいました。保護者の方からは、約100冊の本を寄贈いただきました。子どもが読みたくなる本ばかりなので、矢部学校司書が、フィムコートを付けてくださいました。二学期すぐに貸し出します。

消費期限切れの牛乳の件では、みなさまにご心配とご不安を与えてしまい申し訳ありませんでした。納入業者が、飲んでしまった子どもさんに個別に謝罪と説明を行いました。学校に対しても、お詫びの文書をいただきました。警察の捜査でも混入原因はわからなかったということですが、再発防止に万全を期すとのことでした。



## 教育環境の改善！

夏休み中に、各階に洋式トイレが、10月末までには、ファンヒーターが各教室に設置されます。よりよい教育環境の中で、教育活動をさらに充実させてまいります。

## ちょっといい話



「〇〇の応募票が見つからないのですが。」

夏休みの課題の応募票がないと問い合わせがありました。お盆休みだったのででしょうか、お父さんは、応募票を受け取りに子どもと一緒に来校してくださいました。

夏休みは、親子で学習に取り組むよい機会です。親が主体的にその機会を大切にしてくださってる姿に感心させられました。